

## エンカルナシオン市概要（イタプア県）



エンカルナシオン市は、首都アスンシオン市から約370km地点に位置するイタプア県の県都であり、アルゼンチンとの国境に面したパラナ河沿いの街です。河の向かい側にはアルゼンチン側のポサーダス市が眺められます。

エンカルナシオン市は戦後移住の玄関とも言われ、ここからチャベス市やピラポ市、ラパス市への入植が始まりました。これら入植者の中には移住地を出て、エンカルナシオン市やアスンシオン市の都市部へ転住し、野菜作り、商業、食堂等をはじめた人もおり、エンカルナシオン市にも日系社会の人口が漸増したことによって日系社会が発足しました。

### エンカルナシオン日本人会



エンカルナシオン日本人会は1961年に設立され、日本人会の傘下には、いちご会、あけぼの会、婦人部、青年部の4つの系統団体があります。年間通じて教育関連行事、敬老会、成人式、運動会・園遊会、ゲートボール、バレーボール、サッカー大会等さまざまな行事を企画・実施しています。

### 社団法人 エンカルナシオン日本人会

住所： Avenida Irrazábal esq/ Próceres de Mayo, Barrio Buena Vista-Itapúa

電話： (+595 71) 202-268

E-mail: [encarnacionnikkai@hotmail.co.jp](mailto:encarnacionnikkai@hotmail.co.jp)

### パラグアイ日本人戦後移住記念碑

2007年9月、イタプア管内日本人会（チャベス、ラパス、ピラポ、エンカルナシオン）は「パラグアイ日本人戦後移住記念碑建設委員会」を設立し、エンカルナシオン日本人会敷地に戦後移住到着の第一歩を刻した記念碑と枯山水日本庭園を建設しました。本記念碑と日本庭園は、開拓の苦楽を共にした多くの朋友を偲ぶと共に、戦後移住者がエンカルナシオンの地を起点に、各移住地へ入植した歴史を後世に残すことが、日本人移住者の使命と考え、建設に至りました。

### エンカルナシオン日本語学校



エンカルナシオン日本語学校は1970年に開設され、現在（2022年）、小中学課程、幼稚園部及び中学部を含め、生徒数は52名（2022年12月現在）、教員数は校長を含め4名です。日本語学校の主な年間行事として、全校生徒遠足、運動会、校内作文スピーチ大会、運動会お泊り会、夏祭り、虫歯予防運動等が年間を通じて行われています。

### パラグアイ日系アイデンティティセンター







同アイデンティティセンターは、エンカルナシオン日本人会の敷地内にあり、日本移民の移住当時の歴史や感情を、写真やムービー、遺物の展示などを通して感じとれる体験型展示空間である。このセンターは、日本人移民の出発地を思い出させるだけではなく、パラグアイ日系人の歴史や独自のアイデンティティを感じ、学び、理解し、誇りをもって広めていくという役割も果たしている。



その他にも同日本人会・アイデンティティセンターには、日本を思い浮かばせる茶室があります。飾られている掛け軸は、現地の方の書道作品であり、季節ごとに掛け替えられています。

ホームページ： <https://identidadnikkei.org.py>

### エンカルナシオン市の観光

エンカルナシオンは、「南の真珠 (Perla del Sur)」と呼ばれるパラグアイの第三の都市です。アルゼンチンとパラグアイを結ぶ橋、イエズス会が残していった歴史的・建築的、宗教的に重要なTrinidad del Parana、Jesus de Tavarangue、San Cosme y San Damianの3つの伝道村等があります。

この都市は、毎年2月に色とりどりの飾りや衣装、そして賑いを見せるカーニバルが開催され、何千人もの国内や隣国の観光客がパレード等を楽しみにこの街に集まります。



カーニバルパレード

(カーニバル、パラナ河及び遺跡の写真)

### 行き方

アスンシオン市バスターミナルからエンカルナシオン市（国道1号線/8号線）行の長距離バスに乗り、約6時間でエンカルナシオン市のバスターミナルに着きます。または、アスンシオン市からエステ市（国道2号線）へ行き、ミンガ・グアス市からエンカルナシオン市（6号線、7号線）に向かうことも出来ます。